

園長だより NO59

先週は暖かい陽気が続きました。日中は半袖で過ごせる位でした。連休明けから肌寒さが戻りました。小春日和は夢心地、冬の到来をしっかりと感じ取り体調の管理に努めていきたいと思います。

ひとり一人を大切にしている具体的な保育

昨今の保育業界はそれぞれに応じた、丁寧な保育をしましょうと多くの園が保育にあたっています。

ひとり、一人を大切にしている具体的な保育とはどんなことなのでしょう？

「遊 び」を考えてみると子どもの興味、関心にそって保育者が環境を作り(構成し)子ども達は自分(自分たちの)世界を広げていく、保育者が興味、関心を読み取って環境を用意していくことで子ども達は自分の世界(学びの世界)を広げていこうとする。すべての子ども達に通じる特徴です。

子どもの仕事は遊びと言われるようにそれぞれの子が遊びに没頭し夢中になれる環境やその内容を持てるように計画的に環境を用意してあげる営みが保育者の仕事となります。

具体的な場面を通じて考えてみる - 1歳児

午睡(お昼寝)時のことです。1歳児は昼食をとると程よく順次、入眠していきます。

ほぼ毎日のことですが数名はなかなか眠りにつきません。しばらく遊んでから眠りにつ

きます。

最初に眠りに入る子は12時頃

最後に眠りに入る子は1時頃、約1時間の差があります。

園の理想は「寝たいときに寝る。食べたいときに食べる」それぞれに応じた丁寧な保育とは食事、排せつ、睡眠、遊びなど丁寧に関わることで、大人の考えたスケジュールに合わせ行動するという考えはNG、子ども達の視点で考えて、ひとり、一人の状況にあわせるということです。

ただ理想と現実とは異なります。それぞれにと考えていても、やはり保育園は集団での保育なんです。物理的な状況や空間、時間の制約は一人の子と向かい合わせてくれないことも度々、ただ諦めては子ども達のよりよい生活は営めない。いくつもの制約はあってもできるだけ理想に近づきたいと日々保育にあたっています。

話を戻します。

その日は南風が強く吹いた日、クヌギの葉は風に吹かれて園庭やテラスに吹き飛ばされてきます。



お昼寝をしていない子ども、仮に太郎君と花子ちゃんにしまう。部屋で遊んでいた二人、部屋の扉を開けテラスをみる「おやおや葉っぱだ」と感じたのでしょうか。部屋から出てきてテラスへ「なんではっぱ？」 「どこからきたの？」と葉っぱをみて大騒ぎ！

太郎さんと花子ちゃんは葉っぱを集めます。傍らにいた先生はさりげなく袋をわたす。太郎さんは靴箱掃除用の小さなほうきを持ち葉っぱを集めます。時間は12時30分を回っています。二人を除いた子ども達はもう夢心地です。



二人のやりとりもなかなか面白い！それぞれが楽しみ、かみ合っていない。でも気が合っている。同化、同調、同じことをしながら意気投合していました。

しばらくそのやりとりを見ていた先生は程よく集められた葉っぱも持って二人と一緒に部屋にもどりました。

まだまだ眠りにつかないオーラを出している二人の様子からもうしばらく遊ぼうかなと考える。保育士なら当然、その時の子ども達の興味、関心を読み取り、集めた葉っぱで何かつくろうかなと誘い一緒にあそぶ



花子ちゃん「葉っぱを画用紙にはりました」



「これは花子だよ」

パパ、ママ、太郎君 ばば

葉っぱファミリーの出来上がりです。

時間の経過と共に花子ちゃんはお昼寝へ太郎君はベットでゴロンとなるものの眠りにはつきませんでした。

※太郎君なりの眠らない理由を先生はわかっています。

この様子を見ていた私、二人は「大事にされている」という感覚をその子なりに持ったのかなと感じました。このようなそれぞれに応じた対応は日常よく見られます。この感覚が積み重なり「私は大事な存在なんだ」と自己を肯定する感覚が育つように思えました。

地道にこつこつと接していく。大人の都合を優先していたら「早く寝なさい」と無理やりベットに連れ背中をトントンと叩くでしょう。

ひとり一人を大切にすることは子ども達にしっかりと向き合い、その子の行為、内面をしっかりと理解しようとする、ひとり一人を大切にすることはそのカテゴリーの全体的な発達も促されていくのです。

(園長 廣部 信隆)